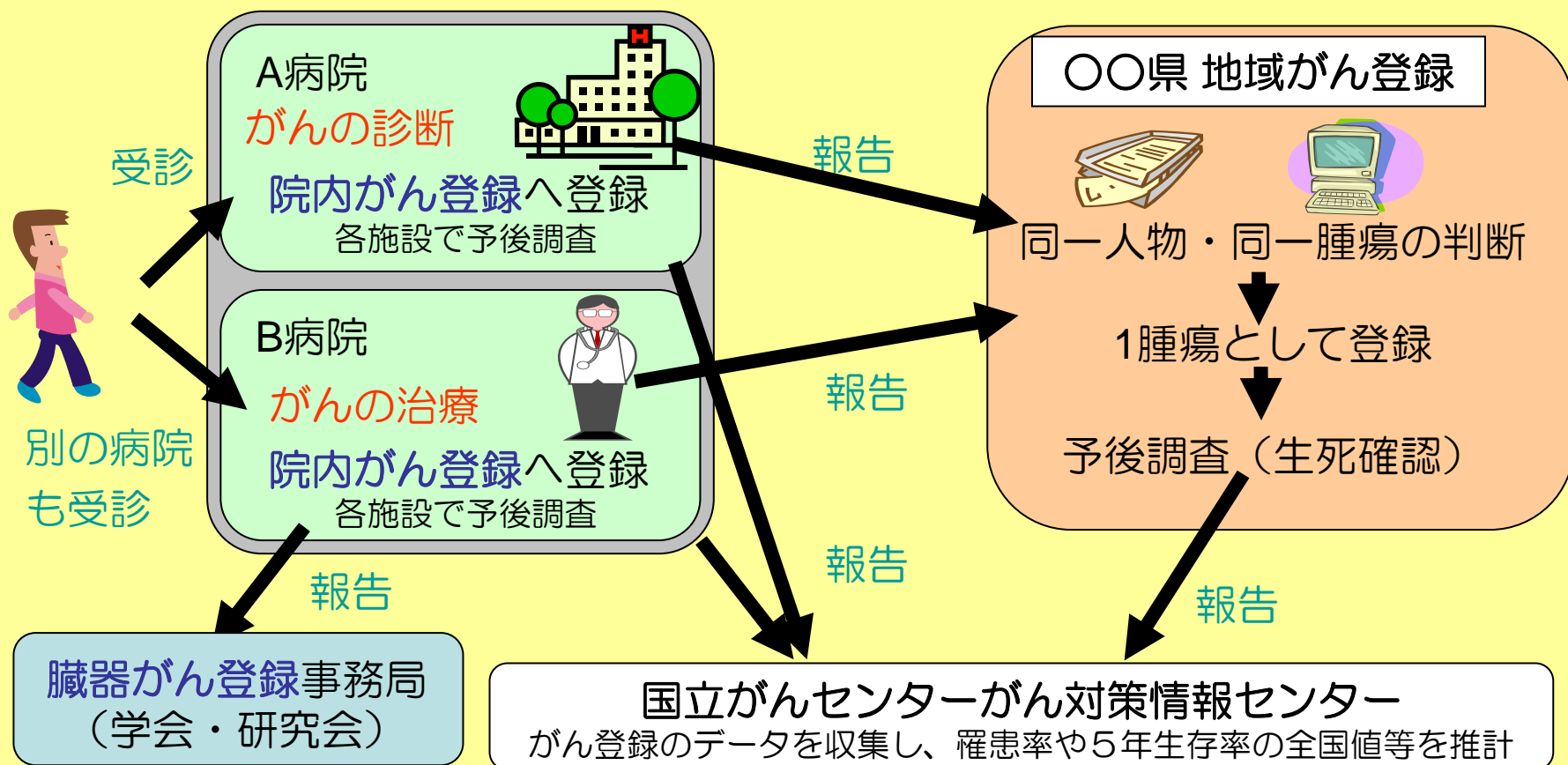


# がん登録とは

## がん登録は、

がんの罹患や転帰その他の状況を登録・把握し、分析する仕組みであり、**がん罹患数・罹患率、がん生存率、治療効果の把握**など、**がん対策の基礎となるデータの把握のために必要なものである。**

### =がん登録の仕組み（3つのがん登録）=



※院内がん登録未実施の病院においても、医師が地域がん登録や臓器がん登録に協力している場合がある。

# がん登録の必要性

死亡統計(例えばがんマップ)だけでは、  
**がん対策の基礎となるがん医療の実態データが把握できない**

・乳癌の罹患数が多いのか？

→罹患の把握の徹底とリスク要因の同定・予防対策の実行

・早期発見ができていないのか？

→検診プログラムの普及と品質管理システムの確立

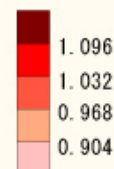
・治療が悪いのか？

→地域較差・施設較差の把握とその原因を把握

## がんマップの一例

図 乳房 2000年 女性

乳癌  
死亡率に地域差



**がん医療の実態把握**  
→対策に結びつけるには  
**がん登録が必要！**

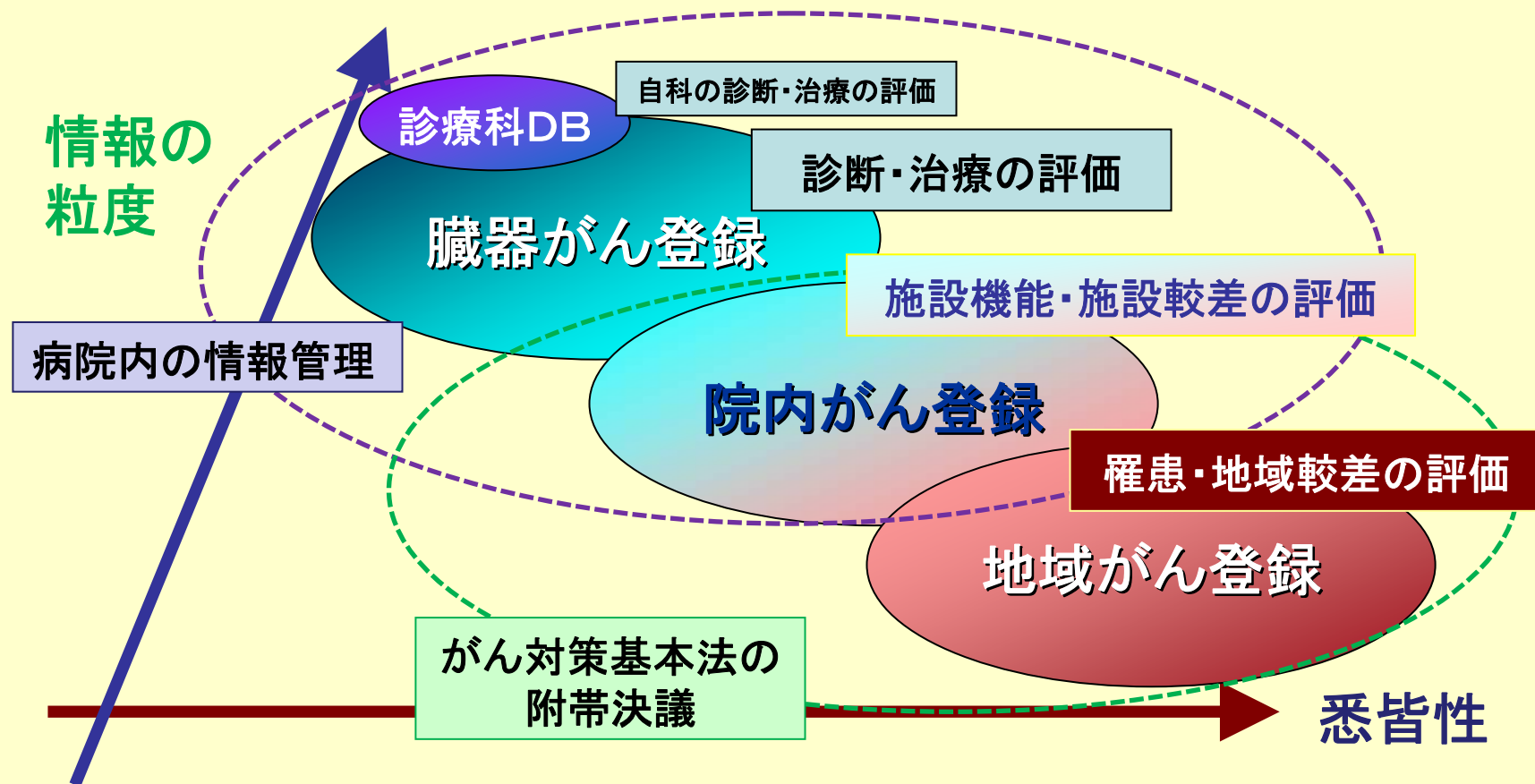
## 標準化死亡比(SMR)

年齢階級別の人口構造が、全国の平均的な人口構造と同じであったとした場合の死亡率の高さを表します。SMR=100 は全国並、SMR>100 は全国平均より死亡率が高いことを表します。

性別 部位別 標準化死亡比

# がん登録の種類と特性

- 悉皆性 (どれだけ「がん」の全数を把握しているか)
  - 情報の粒度 (細かさ)
  - そして、目的
- } が異なる



# がん登録の認知度 (内閣府世論調査)

## がん登録の認知度

- がん登録について知っているか聞いたところ、「知っている」とする者の割合が13.4%、「知らなかった」と答えた者の割合が85.6%であった。

## がん登録の必要性

- 国全体でがん登録が実施される必要があると思うか聞いたところ、「必要と思う」とする者の割合が54.6%、「どちらともいえない」と答えた者の割合が26.9%、「必要と思わない」とする者の割合が13.5%であった。

図18 がん登録の認知度

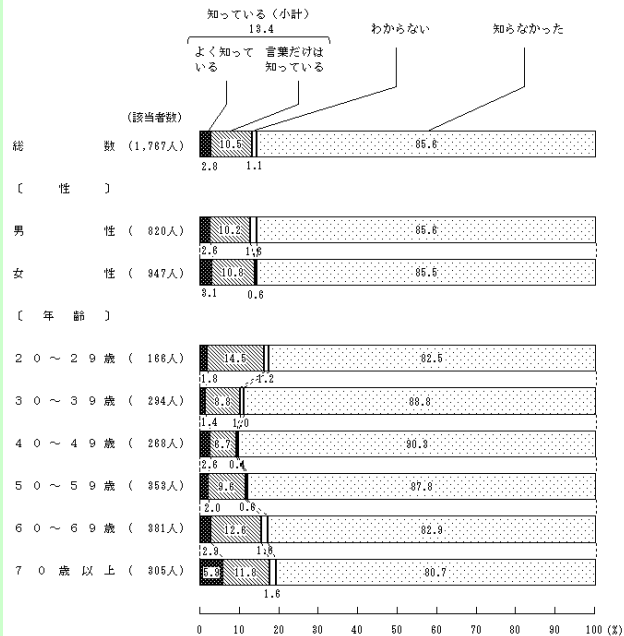
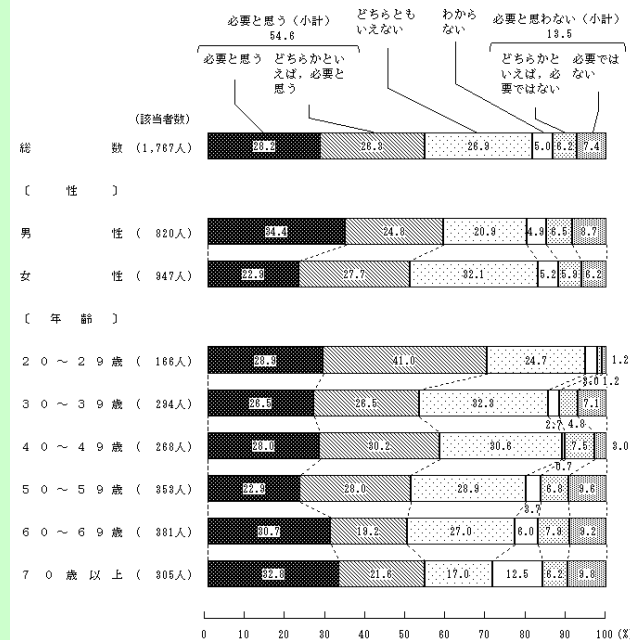


図19 がん登録の必要性



# がん登録の推進（施策）

## 院内がん登録の促進

- がん診療連携拠点病院において、標準登録様式に基づく精度の高い院内がん登録（がん患者の診断・治療内容等のデータ登録）の実施、及び地域がん登録への協力を義務化

## 登録項目・様式の標準化

- 「院内がん登録」について標準登録項目・様式を定め、全国的な登録内容の標準化を推進。
- 「地域がん登録」について、標準的手法の確立に向けた調査研究を実施

## がん登録の実務担当者の研修

- 国立がんセンターにおいて、がん診療連携拠点病院のがん登録実務者に対する研修を実施する等、連携拠点病院等に対する技術的支援を実施

## 院内がん登録データの収集・全国的な分析

- 国立がんセンターにおいて、がん診療連携拠点病院の院内がん登録データを収集し、全国的な傾向や課題などを分析。